

奥日光での鳥類の観察と考察

1. 研究の動機

当初は、鳥の生態について調べようと考えたが、事前学習で、同じ鳥が住んでいる場所によって、行動に多少の違いがあることがわかった。そこで、日光で実際の観察を行って明らかになった行動と、図鑑で調べた一般的に知られている行動との相違点と共通点について調べることにした。

2. 研究の目的

おもに、ホテル前の道路・戦場ヶ原の数カ所でフィールドワークを行い、野鳥の行動を観察し、観察した鳥の相違点と共通点を明らかにすることによって、鳥の行動の特性を深く理解する。

3. 研究の方法

バードウォッチングという観察用法。双眼鏡とスマホを用意する。双眼鏡にスマホをあてて、その状態で鳥の姿を撮影する。日光アストリアホテル周辺、戦場ヶ原で観察を行った。

4. 調査・観察の結果

① ニュウナイスズメ

時間：6時3分頃

場所：日光アストリアホテル前の松の木の上

観察：しきりに体をこすっていた。

頬に黒点がない。

頭部から背面にかけて茶色はよく見るスズメより鮮やか。

文献：スズメ目スズメ科。

全国に分布。

涼しいところを好む。

メスはクリーム色の眉斑がある。

(眉斑→目の上にある眉状に見える線のこと。)

図鑑には明るい場所にいるとあり、観察では、比較的明るく見晴らしがよい場所にいた。



図1 松の木にとまる
ニュウナイスズメ

② ホオジロ

時間：6時37分頃

場所：日光アストリアホテル前の松の木の上

観察：周りを見回していた。

スズメと同じくらいの色と形をしていた。

文献：スズメ目ホオジロ科。



図2 松の木にとまる
ホオジロ

この鳥は留鳥または漂鳥。

開けた場所を好み、林に入っても暗い場所には行かない。

主食は種子と昆虫。

図鑑には、暗い場所に行かないとあり、観察では、松の木の頂点付近にいた。

③ ハシブトガラス

時間：6時54分頃

場所：日光アストリアホテル前の駐車場

観察：全身青紫色か、光沢のある黒色。

くちばしは大きく湾曲しているように見えた。

文献：スズメ目カラス科。

市街地にもいるが、森林にすることが多い。

一定のねぐらを持つ。

図鑑には、知能が高いとあり、観察では、
食べ物の残骸をとり、人の方へ近寄った。



図3 アスファルトを歩く
ハシブトガラス

④ ビンズイ

時間：7時50分頃

場所：日光アストリアホテルの庭側の窓の近くの地面

観察：窓にぶつかって死んでいた。(2羽)

窓にはヒビが入っていた。

ぶつかって間もない。

文献：スズメ目セキレイ科。

漂鳥または夏鳥。

主食は昆虫やクモ類、松の種子。

主に木から木へと移動する。

図鑑には、木から木へと飛び移る習性があるとあり、
観察では、窓に映っている木に飛び移ろうとしていた。



図4 ビンズイの死骸

⑤ ノビタキ

時間：10時4分頃

場所：戦場ヶ原の開けた草原地

観察：胸のあたりが橙色、翼には白い筋がはいっているように見えた。

文献：スズメ目ヒタキ科。

夏鳥または渡り鳥、本州中部以北に渡来。

昆虫をおもに食べ、草の穂先などにとまる。

尾や羽を上下に動かしながら動き回る。

図鑑には、穂先にとまるとあり、観察では、木の上にとまっていた。



図5 戦場ヶ原のノビタキ

⑥ ウグイス

時間：10時50分頃

場所：戦場ヶ原の木の頂上付近

観察：「ホーホケキョ」と鳴いていた。

体は緑色をしていた。

文献：スズメ目ウグイス科。

瑠鳥または漂鳥。

昆虫やクモ類、木の実などを食べる。

決まったとまり木はない。

オスメス同色、オスのほうが一回り大きい。

子育てのために姿をあらわさないの、目視は困難。

図鑑には、目視が困難とあるが、観察では、姿と声を近くで確認できた。



図6 松の木にとまる
ウグイス

⑦ オシドリ

時間：11時4分頃、11時23分頃

場所：湯川

観察：2か月くらいの子供が2匹、泳いでいた。

ねずみを食べようとしていたが、諦めていた。

文献：カモ目カモ科。

全国に分布。

主食はどんぐり。

メスは茶褐色、オスは派手な色をしている。

図鑑には、主食にどんぐりを食べるとあるが、観察では、ねずみを食べようとしていたように見えた。



図7 繁殖期のオシドリの
オス（引用※）



図8 戦場ヶ原の湯川の
オシドリのメス

5. 考察

ニュウナイスズメ、ホオジロ、ノビタキ、ウグイスは、木の頂点にいたり、開けた場所にいたりしていたことから食べ物を探していたか、または、定期的に鳴いていたことから縄張りの主張をしていたと考えられる。それぞれの鳥の居場所とその行動とは関係していると言える。

ハシブトガラスのように高い知能によって人間の居場所に行くことで捕食が可能になると学習する鳥がいる。また、ビンズイのように日光の自然には順応しているが、ホテルの庭に木があり、窓にその木が映って見え、それに飛び移ろうとしてホテルの中庭に面している窓にぶつかった鳥がいた。これは、ホテルの建物という人工物の窓の大きさなどに配慮することで、より多くの野鳥を守ることができると考えられる。

オシドリの二羽の幼鳥が川を泳いでいるところに近寄っても逃げなかったのは、幼鳥のため経験が浅く、まだ人間の存在を外敵として理解していないためだと考えられる。

6. 今後の課題

早朝の野鳥観察は、多くの鳥を観察することができたため、早い時間の方がより多くの鳥を観察できると考える。また、鳥は機敏に動いてしまい、一カ所に一定時間静止していないので、発見したらまず、写真におさめたほうがよい。オシドリが今回ねずみを食べようとしていたが、その理由についてはよくわからないので、今後さらなる観察と調査が必要かと思われる。

7. 参考文献

『原色日本鳥類図鑑』 小林 桂助 保育社 1956年3月

『奥日光フィールド図鑑』 奥日光自然史研究会 下野新聞社 2009年7月

『フィールド図鑑 日本の野鳥 第2版』 叶内 拓哉 文一総合出版 2017年12月

『街・野山・水辺で見かける野鳥図鑑』 柴田 佳秀 日本文芸社 2019年6月

※「オシドリのオス」(写真) <https://orbis-pictus.jp/img/article/oshidori-main.jpg>(アクセス日
2021/12/13)

謝辞

栃木県立博物館の栗原隆先生には、全体会での講義や野外観察でのご指導で大変お世話になりました。

また、日本野鳥の会の刑部節先生には日光でのフィールドワークの際、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。